

# 令和7年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校 自己評価・学校関係者評価

基本方針	校訓「質実剛健」「創意実践」をもとに社会に貢献する人材の育成をはかる。			<h2 style="text-align: center;">学校関係者評価</h2> <p>※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>5</td> <td>:</td> <td>最も良好</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>:</td> <td>ほぼ良好</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>:</td> <td>普通</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>:</td> <td>やや不良</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>:</td> <td>不良</td> </tr> </table>	5	:	最も良好	4	:	ほぼ良好	3	:	普通	2	:	やや不良	1	:	不良
	5	:	最も良好																
4	:	ほぼ良好																	
3	:	普通																	
2	:	やや不良																	
1	:	不良																	
令和6年度の成果と課題	令和7年度重点目標	令和7年度重点施策	状況																
<b>重点目標</b> 1 法人内連携教育と「S×P教育」「Global教育」を発信し、知名度の向上、ブランド力の向上を図る。 2 目標定員を獲得するための募集活動を展開する。 3 学習活動に於けるPDCAを実践することによって、学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜に対応した学力を育成と、組織的な進学指導を目指す。 4 10年後の在り方（あらまほしき姿）検討委員会をバックアップする。 5 校外での研究発表会の実施と、大会における入賞を目指す。 6 教職員エンゲージメントの向上を図る。 <b>成果・課題等</b> 1 法人内連携教育改善を検討し、具体案を作成した。 2 募集活動の検証を行い、臨機応変に改善を加え、目標達成を目指した。 3 個々に対応した細やかな進路指導と大学入試への対応を行った。SSH活動を中心としたSTEAM教育の実践により、主体的に進路目標を設定する生徒が増加した。 4 建学の精神に沿った未来志向の教育プログラム開拓を継続している。 5 SSH・SSZ、課題研究を中心とした探究学習の成果が各種発表会で入賞に繋がった。 6 教職員の心理的安全性が担保された組織づくりを行った。	1 目標定員を必達するための募集活動を展開する	◎募集活動の検証を行い、臨機応変に改善を加えることで、目標値を達成する。	継続																
	2 法人内連携教育の改善と探究活動・国際連携の推進。	◎高専・高大連携教育の改善を検討し、次年度以降実施する具体案を作成する。高専・高大連携教育において、御幸町新キャンパス（M20）の活用を行う。	改善・継続																
	3 質の高い授業・講座を展開しながら、学ぶ楽しさに繋げ、知識・思考力・応用力の向上を図る。	◎SSH活動を中心としたSTEAM教育の実践により、主体的に進路目標を設定する生徒の増加を図る。中高一貫生のレバレッジ度を分析し、教育成果の分析を継続する。	改善・継続																
	4 SSH第5期申請・国際バカロレアについて検討を開始する	◎教育成果向上のため対応できることは即実行に移す。本校の10年後の具体的な教育プログラムを完成させる。	継続																
	5 コンプライアンスの徹底と働き方改革の推進	◎教職員の心理的安全性が担保された組織づくりを目指す。	継続																
	6 各種マニュアルの改訂と研修の実施	◎自然災害への対応、保健衛生管理の徹底、保護者、及び外部対応のリスク管理	継続																

評価項目	具体的目標	具体的方策等	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	教育関係者	地域住民	
総務部	選ばれる学校となる。	本校には数々の強みと魅力があることを前提として、その発信に努めた。	3	3.7	ますます競争が激化する中、全教職員が一人一役で本校の魅力を伝える体制づくりに注力する。	5	4	4	5	4	4	4	4.2
	生徒・教職員が、落ち着いて学習活動、教育活動が行える環境作りを行う。	指導部・教務部・事務局など他部署と連携し、多角的な視点で、環境作りを行った。	4		各部署の活動がリンクするよう、さらなるコミュニケーションを重視する。	5	4	4	5	4	4	4	
	地域の人たちに愛され応援される学校環境作りを行う。	中学生の地域清掃活動や高校有志のボランティア活動などにより、地域と良好な関係構築に努めた。	4		生徒の主体的な活動をさらに活発化するために、いかに啓発するかを工夫する。	5	4	4	4	4	4	4	
総務課	式典を通じ、礼節を育む。	式典の意義を踏まえ、厳粛な式の運営を心がけた。コロナ明け約3年が経過し、対面・オンラインのすみ分けもほぼ完成し効率且つ適切な運営ができた。	4	4.0	次年度は入学式中高合同で一度に集約する形式を提案し、その方向性で準備にとりかかっている。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
	防災意識を高め、災害に備える。	防災訓練と連動して、防災クイズなどを各学級でおこない、楽しみながら防災意識を高めた。	4		いたずらに不安をあおるのではなく、正しく恐れるメンタリティと正確な情報を入手し、それを基に具体的準備を啓発する。	5	4	4	5	4	4	5	
	スクールバスを円滑に運行する。	総務課を主として、当番制で必ず指導にでて、安全に運行できるようにした。	4		年度当初のお試し期間を短縮し、正常運行にいち早く移行するよう努める。	5	4	4	5	4	4	5	
入試広報課	募集定員（目標生徒数）を確保する。	レベルアップを目論み質的向上は図られたが、受検者増加につながらなかった。	2	2.3	進化・深化する本校の魅力を多様な側面から伝え、質量の向上に努める。	4	3	3	4	4	4	4	3.9
	単願受験者を増やす。	授業料無償化に伴い、公立志望から本校へという流れをつくろうと全力を傾注したが伸びを欠く結果となった。	2		単願者が伸びなかった状況を猛省し、発信内容や方法の改善を早急に図る。	4	4	3	4	4	4	4	
	説明会への参加者を増やす。	従来とほぼ同様の参加者を確保できた。参加者が少ない中学・地域には、重点的に参加を促した。	3		中学の行事を把握し、中学生・保護者が来やすい設定をおこなう。	4	4	4	5	4	3	4	
施設管理課	環境美化に努める。	生徒会の委員会活動を通じて備品点検を実施し、生徒の主体的活動を啓発した。	4	4.0	生徒の主体的な活動、備品を大切にすることを育む啓発活動をさらに活発化する。	4	4	4	5	4	4	4	4.2
	施設・設備の管理を徹底する。	日頃からの点検と行事前の点検を通じて、不備がいち早く改善されるよう丁寧に点検をした。	4		日々の点検・週末点検・行事前の整理整頓などが習慣となるよう啓発する。	4	4	4	5	4	4	4	
	迅速な修理を行う。	事務・技師との連携を図り、補習対応を行った。	4		継続して実施をし、放置されることにより安全が損なわれるリスクに注意をばらう。	5	4	4	5	4	4	4	
図書課	基本図書の充実を図り、自主的な読書や学習等の図書館活用の推進を図る。	生徒のリクエストに迅速に応え、課題研究や進学準備の力強いサポートを行った。	4	4.0	担当教員・司書・図書委員の生徒が連携しながら、さらに進めていきたい。	4	4	4	4	4	4	5	4.2
	図書館運営を円滑化し、新しい教育活動に寄与する「ラーニング・コモンズ」をめざす。	既成の枠に捉われないことなく、折り紙作品の展示、教職員の所蔵物の紹介、英会話教室など、書籍＋αの魅力ある空間となった。	4		さらに、面白く楽しくためになる、加えて生徒の落ち着ける居場所になるような空間づくりを行う。	4	4	4	4	4	5	5	

教務部	魅力ある授業を展開する。	教科研究授業を定期的実施し、振り返りを行うことで、教科指導力の向上を図った。	4	3.8	更なる教科指導力向上のために研究授業等を継続して行う。	4	4	4	5	4	4	4	4.0
	法人内各学校との連携教育の強化をする。	各学校と連携をとり、学校説明会、体験学習、出張講義を行い、生徒の進路選択の幅を広げた。	4		法人内各学校と更に連携を深め、最新の情報を生徒に伝え、高・専一貫コース生および進学者を増やす。	4	4	4	5	4	4	4	
	若手教員を育成する。	定期的に研修会(教科指導力、クラス経営、私学学校とは等)を実施し、若手教員育成を図った。	4		今後も研修等を継続していくとともに、若手教員が気軽に相談ができる環境を維持していく。	4	4	4	5	4	4	4	
	スタディサブリの有効活用を促進する。	定期的に授業動画・確認テストや到達度テストを行い、学力向上を図った。	3		高校1年普通科では朝学習等にも利用されていたが、他ではあまり有効に活用されていないように思われた。今後の利用については検討が必要である。	3	4	3	5	4	3	4	
教務課	学びあい、高め合いながら授業準備、展開ができる教員集団を支える。	教員同士が共有できる時間を意識し、サポートをおこなった。	4	4.0	慣習的なことにまどわされず、経験や資料を共有できるプラットフォームの作成にも着手したい。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
	これからの教育手法を考える。	オープンAIなどを活用した事例に触れ、積極的に活用方法を模索した。	4		一部教員だけでなく、全体として活用できる仕組みを提案する方法が必要である。	4	4	4	5	4	4	4	
理数科	思考力、判断力、表現力を高め、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度を育成する。	各教科担当および課題研究指導と連携して、探究的な学習で自ら問いを立てて考える場をつくり、討論や振り返りで多面的に判断する力を育てる。	4	4.0	問いを立てる学習経験の不足、対話や協働の機会の限定、学びの振り返りが不十分な点	4	4	4	5	4	4	4	4.1
	進学指導体制を強化する。	個別面談の充実、進路データ分析の活用、情報提供の体系化、教員間の連携強化を進め、生徒の進路選択を多面的に支える体制を整える。	4		個別指導時間の確保が難しい点	4	4	4	5	4	4	3	
	進学指導のノウハウを共有する。	大学進学指導課と連携して、進路結果のデータベース化、入試選考会議の実施、教育研修課と連携して、通常授業や研究授業の公開による相互参観を行い、教員間で授業手法や経験値を蓄積・共有する体制を整える	4		教員間で共有する場や時間が不足していること、成功事例・失敗事例の分析が十分でないことが挙げられ、知見が蓄積しにくい点	4	4	4	5	4	4	4	
国際C科	生徒が国際理解を深めるプログラムを発展させる。	イングリッシュサマーカーキャンプを、一部の国C科2年生をスタッフとして実施した。日本文化を理解するために、着付け、藍染、能などの日本の伝統文化を体験した。	4	4.0	「国際理解」の観点から、姉妹校や海外学生とのオンライン交流ができる機会を設けたい。	4	4	4	5	4	4	5	4.2
	確かな語学力とコミュニケーション力を育てる。	英語学習の意欲向上につながるスキットやプレゼンテーション指導を行った。	4		1・2年の交流機会を設けることで、互いのコミュニケーション力・英語力の向上につながると考えている。	4	4	4	5	4	4	4	
	姉妹校を含めた海外校との連携授業を行う。	国際連携教育推進課協力のもと、タイやオーストラリアの姉妹校と交流授業を行った。	4		姉妹校生徒と対面で交流することができ、生徒自身が国際コミュニケーション科の魅力を再確認できた。	4	4	4	5	4	4	4	
普通科	高・専一貫教育の評価を高め、各一貫コースの希望者の増加を目指す。	専門学校と連携授業や学科ごとの講座を実施し、高専一貫コースの魅力や希望者を募ることができた。	3	3.7	高専一貫コース（各校）の生徒を増やすために連携を高め法人内の連携を高めていきたい。	3	3	3	5	4	3	4	3.9
	文科系・理科系コースにおいて質的向上させ、大学進学者を増やし、学校評価の向上を目指す。	大学進学を考えている生徒は夏休みに必ず1校はオープンキャンパスへ参加させた。スタサブなどを効率よく使い進路について学んだ。	4		総合・推薦を利用し大学や専門学校への進学率を上げていきたい。就職は自分の将来を見据えて決定させたい。	4	4	4	4	4	4	4	
	法人内各校の魅力や卒業生の活躍を生徒・保護者に伝え、各校に進学する生徒の増加につなげる。	学校説明会において、各校の魅力を伝えるように体験を増やした。大学や専門学校へ進学した卒業生の在学中取り組み、入試の方式を進学先での取り組みを紹介した。	4		卒業生の活躍を伝え、どの進路に対しても対応できることを伝え、情報を発信していきたい。	4	4	4	4	4	4	4	
課外講座推進課	課外講座を通じて、生徒が生き生きと活動・活躍できる場を提供する。	アントレプレナーシップ活動をはじめとする課外活動や出前講座等の企画・運営を行った。	4	4.0	生徒が主体的に活動できる場（生徒による購買運営）を実現するための土台作りを進めていく。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
研修	新学習指導要領に対応した教科指導力を向上させる。	夏期と春期の教員向け予備校研修の情報を共有し、実施した。	4	4.0	各教科ごとの内部研修の機会を増やしたい。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
	多様化する社会の現状を踏まえ、在るべき教育機関としての生徒、保護者への対応法を習得し、クラス経営に活かす。	教育現場が抱える世代別の課題とその対応法について、リーダー研修会、教職経験5年研修、10年研修など、研修の機会を利用し社会の変化に対応したスキルを身につけ、現場で活用している。	4		社会の現状を踏まえ、指導の在り方を考えるためには、内部だけの意見交換的な研究では偏る傾向があるため、外部での研修機会を増やしていきたい。	4	4	4	5	4	4	4	
	若手教員の教育指導力を育成する。	新任教育研修を年2回計画し、実施した。	4		新任教員研修は、各教科の協力を得て、順調に実施できている。	4	4	4	5	4	4	4	
ICT教育	教育環境拡充のために、ICT教育環境構築を推進する。	業務効率化のための環境整備を行うアプリケーションサービスの効果的な活用を促すデジタル採点の活用を推進する	4	4.0	アプリケーションサービスやデジタル採点の一層の活用を推進する。生成AIの利活用について知見を深める。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
	ICT設備・機器の利活用について、パフォーマンス向上を図る。	設備と機器の保守・更新を通して好ましい教育環境の維持を図る	4		必要なICT機器の保守と更新を活用に見合った水準で行い、教育環境の一層の改善を図る	4	4	4	5	4	4	4	
国語	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、我が国の言語文化に対する理解を深める。	文章読解、知識・技能を身につけるための演習法を発展させる。	3	3.0	知識・技能の習得に割ける時間の確保と効果的学習方法の開発・共有をできるようにする。	3	4	4	4	4	3	4	3.7
	共感し想像する力、創造的に考える力、他者と伝え合う力、思いや考えを広げ深める力をつける。	ディスカッション、レポート作成、比べ読みを授業法を発展させる。	3		チームで同じプログラムを実施するにあたり、教員の技量や練度、評価のあり方の共有のあり方を深化する。	3	4	4	4	4	3	4	
地公	観点別評価について精査、見直しを行う。	科、コースの現状に即して、評価基準を精査し、改善してきている。	4	4.0	授業内容を精査し、資料を活用することで思考力の育成を図る。	4	4	4	4	4	4	4	4.0
	教科指導力の向上を図る。	科目・分野を問わず、教科指導力の向上に努めつつ、専門分野においてはより充実した指導を展開するように努めている。	4		教科研修の時間を確保し、指導力の向上を図る。	4	4	4	4	4	4	4	
数学	変化する大学入試に対応する学力を育成する。	習熟度別授業や個別指導を効果的に実施すると共に、入試問題の研究・対策を行い、情報を共有している。	4	4.0	3年目の共通テストや大学入試に対応した学力を身につけさせるための情報共有を続けていく。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
	社会で活かせるような基礎知識の定着を図る。	授業内での声掛けや課題の提出状況の点検を細目を実施し、授業研修を通して教員間での情報共有を行った。	4		学習指導要領で求められている学力の育成のための研究を継続していく。	4	4	4	5	4	4	4	

教科	理科	基礎学力の向上を目指す。	単元ごと的小テストやレポート等を通じて思考力・判断力・表現力につながる授業を展開した。	4	4.0	副教材を見直し基礎の定着を図る。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
		各科目の進捗と観点別評価法を検証する。	受験時期を踏まえて3年間の進捗を見直し、それぞれの進路に適した授業を研究した。	4		4	4	4	4	5	4	4	4	
	保体	適度な運動の必要性和スポーツの楽しさを体感させる。(生涯にわたり運動に取り組む意識作り)	体づくり運動を毎回継続して取り入れ、基礎体力をつけさせる。	4	4.0	どの体育授業でも毎回体づくり運動を行ってきたが、各々新体力テストでその成果を確認し、次年度への目標に繋げている。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
			課題を克服していく過程の中で、生徒がお互いに協力し合い、楽しく運動を行える授業を計画する。	4		4	4	4	5	4	4	4		
	美術	制作活動を通して、思考力・表現力・判断力を発揮できる素養を身につける。	興味関心を発想力や創作意欲向上に繋げることを大切にして、生徒の思いと技術レベルに合わせた、技法指導を行った。	4	4.0	さらに制作意欲を高めるために、より高度な技法修得と制作環境づくりを心掛ける。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
			美意識を高め、豊かな心を育てる。	美術作品に触れることで、自己を見つめさせて、アイデアを捻出させて、制作活動に向き合わせた。		4	4	4	4	5	4	4	4	
	英語	新教育課程に対応した授業内容の改善を行う。	英語科内で研究授業を行うとともに、英語科教員が各々模擬試験や入試問題等を研究し、授業に活かした。	4	4.0	新教育課程に基づいた教科書や副教材、入試問題等を引き続き研究し、授業の改善に繋げる。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
			英検合格の支援をする。	英語科教員による事前指導、及び面接練習の機会を設けた。新設された要約英作文への指導方法を研究した。		4	4	4	4	5	4	4	4	
家庭	家庭科の実践的な学びを通してアントレプレナーシップの土台を育成する	消費生活の単元だけでなく、生活を支える仕組みにおける価格設定や持続可能なシステムに関する視点を追加した。	4	4.0	家庭科が低学年での実施のため、知識や経験不足を補うだけのわかりやすい事例を集める必要がある。	4	4	4	5	4	4	4	4.1	
		評価の妥当性について検討を続ける	まとめテストの改善をはかり、昨年度より、より自分自身の学習にフォーカスできる部分を増やした。		4	4	4	4	5	4	4	4		
情報	実践的なITCスキル・情報モラルを身につけられる「情報I」の授業を展開する。	「情報I」に関する研究を進め、教科内で情報を共有し、知見の蓄積を図った。学習効果の向上を意識した授業改善に取り組んだ。	4	4.0	これまでの取組と知見の蓄積を踏まえながら、最新の技術動向を反映した教材選定を継続して行う。	4	4	4	5	4	4	4	4.1	
創意実践科	プログラムの改善、検証を行う。	数量化することに重きを置いた課題研究の教材の開発を行い、教員間で共有した。また、全教員が携わる体制を維持した。	4	4.0	指導しやすい教材の改善を行う。全教員による指導体制の維持を図る。	4	4	4	5	4	4	4	4.1	
		発表会の開催、改善を行う。	各学年で発表会を開催し、上級生の発表を聴く機会を設けた。また、発表者は原稿を読まず、発表することを意識づけた。		4	4	4	4	5	4	4	4		
指導部	本校教育活動の成果が直接現れる部署であるという自覚を強く持って校務にあたる。「指し示し、導く」	適切な生徒指導進路指導は生徒教員間の信頼関係から始まるものとし積極的な声掛けを相互に促していく	3	3.0	生徒保護者の変化や多様性に対応するため、社会情勢や慣習の変化を素早く察知していく	4	4	4	4	3	3	4	3.7	
進学指導課	大学進学実績の向上を図る。	担任や教科担当が把握する生徒個々の能力や特性に加え模試データを参考として、最善の受験スタイルや受験校を絞り込んでいく	4	3.5	3年目を迎える共通テストや新課程入試の情報を素早く的確に掴み、指導に生かしていく	4	5	4	5	3	4	4	3.9	
	指導力の向上を図る。	大学や業者が発信するWebによる研修会を積極的に活用し、最新の大学入試システムや入試動向を研究する	3		3年目を迎える共通テストや新課程入試の情報を素早く的確に掴み、指導に生かしていく	4	4	4	5	3	3	3		
	生徒募集に繋げる	入試結果や他校と比較したデータを入試広報課に提供し、生徒募集に繋げる	3		情報を受け取る側に刺さる部分はどこかを探り、より効果的なものとしていく	4	4	4	5	3	3	3		
	静岡理科大学との連携の強化	静岡理科大学の魅力、入試システムや特典を生徒及び保護者に伝え受験者増加につなげる	4		新しいツールを活用して、卒業生の進路先や入試制度の変化を即時的に伝える工夫をする	4	4	4	5	4	4	4		
進路指導課	進路決定に際して主体的かつ意欲的に行動できる生徒を育てる。	就職ガイダンスやJOBフェア、その他業者によるイベントへの積極的参加と活用を促す	4	3.5	比較的「売り手市場」が続くと予想されるからこそ即物的な条件に拠らない判断力を育てる	4	4	4	5	3	4	4	3.9	
	就職希望者への基本的な指導と意識付けを図る。	・提出書類作成や就職試験対策指導を実施する ・一人あたり複数回の面接指導を複数の教員で実施する	3		書類作成や面接指導を受験準備に留まらず、有為な社会人となる機会としていく	4	4	4	5	3	3	4		
	専門学校進学希望者に対して情報を提供し、受験指導を行う。	法人内外専門学校が実施するイベントの積極的な情報伝達と指定校推薦の資料提示をする	3		指定校推薦の認知を拡大し、利点の周知を図る	4	4	4	5	3	3	4		
	進路講座の計画を立て、将来のコース選択、進路実現につなげる。	希望進路別ガイダンス(2年部3月末)を拡充する	4		創意実践課や1年部と連携し、企画への参加者を増やす	4	4	4	5	3	4	4		
生徒指導課	生活指導、交通指導、安全指導を通じて生徒全員の健全な進路を確保するための指導を行う。	SHRを活用して服装を整える意識や交通安全に関する意識を育てる	3	3.0	学級担任による指導から、生活委員や交通委員の生徒が活動できるよう移管していく	3	4	4	4	3	3	4	3.6	
	職員全体で連携した指導を行う。	生徒指導カードを申し送ることで、担任、学年部、生徒指導課が連携して生徒指導にあたることができるようにする	3		今年度の途中から導入した仕組みであるので、引き続き活用しながら改善をしていく	3	4	4	4	3	3	4		
保健体育課	体育的行事の企画・運営により集団意識と責任感を育む。	体育祭において生徒が主体的に計画立案し、運営に参画できるよう指導していく	3	3.0	安全管理や保安面を除き、生徒が運営においても活躍できる機会を拡充する	4	4	4	5	4	3	4	3.9	
	運動部を統括・掌握し、活動における安全確保と活性化を図る。	各部活動の練習や遠征、大会参加状況を取りまとめ共有する。活動中における緊急時対応の方法と事後報告の周知徹底をする	3		落雷や突風など最近になって増えてきた緊急事態への対応方法を徹底していく	4	4	4	5	3	3	4		
	保健活動の実践を通して生徒・職員の健康管理を行う。また、生徒各自が健康の保持・増進に努めるよう指導する。	法令に基づく各種健康診断の実施と治療勧告をする。救急処置法の研修と実習を行う(高校1年生全員実施)	3		救急処置法の研修と実習については今後も継続し、2年後には全生徒が研修を受けた経験を持つ学校としていく	4	4	4	5	3	3	4		

研究開発部	SSH事業の研究開発課題「サイエンスイノベーションによって地域の未来を共創する人材の育成」を達成するために、課題研究を用いた人材育成プログラムを校内外で展開する。	全校、全学科、全学年で課題研究の授業を実施し、第1学年で課題研究を進めるためのスキルを習得するための授業「解決デザイン」を改善した。	4	4.0	「問いを立てる力」の育成を基軸にしたAI活用法を様々試しながら、課題研究の授業に取り入れる。	4	4	4	5	4	4	4	4.2
		自由研究サポートと静岡県児童生徒研究発表会を組み合わせ、過去最大規模で実施した。	4		課題研究活動を活用して、小中高大や地域との連携教育を更に深化させる。	4	4	4	5	4	5	4	
	海外語学研修を中心とした訪問プログラムと姉妹校・教育連携校を受け入れるプログラムの改善による恒常的な国際交流プログラムを現在と近い将来の有益な形に最適化する。	科学英語を1～3年生全員で実施、SKYSEF等、対面とオンラインで国際連携教育を実施した。成果として英語での応答が上達した。	4		実験や実習をしながら表現することによって、英語が自然に話しやすくなる仕掛けを科学英語に加え、生徒が反射的に英語を発する機会を増やす。	4	4	4	5	4	5	4	
		課題研究の成果を地域や国際的な場で発表することによって交流を促進させた。	4		SKYSEFの開催、海外の姉妹校や教育連携校との交流等、国際連携教育を継続する。	4	4	4	5	4	4	4	
創意実践課	昨年度までの実施例を改善して、問いを立てる力を養成する実施例を盛り込んだ「課題研究Ⅰ」と「課題研究Ⅱ」を実施する。	授業では研究の型(因果型・比較型・分類型)を明示したワークシートを用い、探究活動の全体フローを体系的に指導した。具体的には、研究課題の設定、仮説の構築、実験・調査の計画立案、データの取得および処理、考察、資料作成までを一貫して扱った。また、発表会する機会を設け、学びの深化を図った。	4	4.0	自らの研究テーマや成果を真摯に省察し、事象への理解や研究活動を深めるための「問いを立てる力」の育成により注力したい。また、その「問い」をより高度なものとするため、教育的活用の観点から生徒によるAI活用を実践し、指導法の開発へと繋げていきたい。	4	4	4	5	4	4	4	
	昨年度までの実施方法を改善することによって「解決デザイン」(1学年全員)で、課題研究を進めるための基礎技能を高める試みを行う。	授業はゼミ形式で実施し、仮説を生成するためのディスカッション、測定方法を構想する思考過程の指導、ICT活用能力の育成として気象庁公開データの分析を取り入れた。また、4種類の物理実験について、データ処理、グラフ化、結果の解釈、資料作成までを系統的に指導し、基盤となる技能の定着を図った。	4		継続的に探究の基盤技能を身に付けさせる。また研究テーマを発掘するために、実習や体験の際、「問い」という観点から省察することで「問いを立てる力」を育成させたい。多様な測定機器を揃え、使用させ、探究への関心を向上させる環境を構築したい。	4	4	4	5	4	4	4	
	「科学実験英語」(1・2学年理科・普通科の全生徒)と「科学対話英語」(3学年理科・普通科の全生徒)において、②の実施内容をもとに、ものを用いて対話する等の工夫を盛り込んだ実施例を構築する。科学英語とSKYSEFの相乗効果の検証を行い、SKYSEFの開催方法を改善する。	「解決デザイン」等で実施した実験を題材とし、英語によるレポート作成および発表を継続的に行った。これにより、科学的内容を英語で説明する実践的な場を確保し、英語運用能力と科学的思考力を同時に伸ばさせた。また科学英語の授業とSKYSEFとの相乗効果を検証している。	4		身近な簡単な実験、レポート作成、発表(口頭形式、ポスター形式)複数回行うことで、英語活用に慣れさせ、対話量を増やす。SKYSEFでは、生徒が英語での研究発表を行うことに注力するのみにならないよう、海外生徒を対話機会を増やすことを目指す。	4	4	4	5	4	5	4	
	昨年度までの静岡県児童生徒研究発表会を基軸とする地域連携の意味付けを行い、深くする。	静岡県内すべての小学校・中学校・高校へ発表者募集の案内を行い、参加者数が過去最高に達した。また、県内SSH指定校との合同会議を実施し、研究指導の在り方について意見交換を行った。ここから学校間の生徒による研究交流を目的とした企画を立案に至り、探究的学びを支える体制づくりを進めている。	4		静岡県内の学校に継続的な地域連携を行うとともに、生徒による研究交流を目的とした学校間連携(Zoom等の利用)を実現し、本校生徒および普及先の生徒と相互の学び合いを支える継続的な体制を構築したい。	4	4	4	5	4	5	4	
国際連携教育推進課	令和5、6年度の海外語学研修の内容を振り返り、今後の海外研修の実施方法をデザインする。	語学研修の内容を点検、改善し、研修を計画した。多くの生徒に海外研修の機会を提供できた。(3月に実施)。	4	4.0	理教科と国際コミュニケーション科に参加人数が偏ったため、普通科の生徒の参加が増えるよう方策を考える。	4	4	4	5	4	4	4	
	これまでの姉妹校提携を振り返り、新たな姉妹校も含めて、今後の交流の在り方を検討する。	コロナ明け以来初めての、タイ、オーストリアの姉妹校と対面での学校間交流事業を実施することができた。また来年度における交流事業の計画も海外校と調整を進めている。	4		海外交流を経験した生徒の学習意欲や進路選択にどのような影響を与えたかを継続的に観察していく必要がある。	4	4	4	5	4	4	4	
	オフライン(対面)とオンラインを組み合わせ、本校で恒常的な国際交流が実践できる試行例を増加させ、蓄積する。	上記にある姉妹校交流事業に加え、11月に静岡市からの依頼で台湾の学校を1日受け入れ交流を行うなど、多岐に渡り対面での交流活動を行うことができた。	4		オンラインを含めた恒常的な交流を行うために、海外校と持続可能な交流事業の在り方を協議していく必要がある。	4	4	4	5	4	4	4	
	SKYSEFの準備・運営を行う。また生徒が主体的に運営できるような方法を模索し、実践する。	昨年度の反省から、入念に準備を進め、円滑にSKYSEFを開催することができた。また従来教員が担っていた業務を生徒に担当させ、より生徒が主体的に活動する機会を提供することができた。	4		生徒の主体的な活動を促進するため、創意実践課と連携し、事業計画の立案を進める。	4	4	4	5	4	4	4	
中学校	目標生徒数を獲得する。	学校案内等の紙媒体での広報媒体より社会的に露出度を高める広報媒体を活用し、より一層、本校の魅力や教育理念が分かりやすいものにする。また、魅力的な体験教室や在校生と一緒に活動できる参加型授業を実施することで、参加人数の増加を図る。	2	3.5	60名の定員に対して、受検者57名、入学者は53名と、定員数を獲得することができなかった。広報媒体や体験教室の内容を再度精査し、次年度に備えたい。	3	4	3	4	3	4	4	
	SSZプログラムを見直し、更に充実させる。	探究講座において、各授業で生徒が疑問を持ったこと、さらに調べたくなったこと等のデータベースを作成し、探究講座のテーマ決めに役立てる。	4		平素の授業や学びの中から研究テーマを見つける指導用のデータベースが溜まってきた。次年度以降さらに発展させ、指導に役立てたい。	4	4	4	5	4	4	4	
	大学や専門学校と連携し、中学生及び小学生向けのプログラムを実施する。	静岡デザイン専門学校及び静岡日本語学院と連携し、質の高い小学生向けの体験プログラムを実施することにより、総合学園の魅力を広げ、募集活動に役立てる。	4		80名以上の小学生が参加し、事後アンケートにおいても、満足度が高い体験教室となった。	4	4	4	4	4	4	4	
	進学実績の向上を図る。	質の高い授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢」を育成し、大学入試に対応できる人材を育成して、静岡北高等学校に進学させる。CASE、言語技術の質を高め、より深い研究活動やより高度な研究発表ができる基礎力を養う。	4		「深い学び」の研究者である大学教授による授業研究会を2度開き、生徒が深い学びができる授業を職員全体で研究した。	4	4	4	5	4	4	4	
中学1年部	共感・共鳴・共成 ～君のおかげで私がいる～	・他者理解を深めつつ新たな自分づくりにつながるように初期指導を丁寧に行った。 ・より良い集団へ成長するために、学級委員を中心に、学級内の課題を話し合い、毎月生活目標を掲げ、改善に取り組みさせた。 ・様々な事情を抱える生徒やその保護者に対し、焦らず、寄り添う姿勢で対応できた。	4	4.0	誰もが安心して伸び伸びと学校生活を送るために、個々の規範意識を一層高めるとともに、互いの個性を認め合い、励ましあえる集団の雰囲気醸成する。また、これまでの上級生の姿を模範にさせて、生徒個々に応じた学力向上や、諸活動(委員会活動や部活動)の取り組みを大いに奨励し、達成感や自己肯定感を高めさせる。	4	4	4	4	4	4	4.0	
中学2年部	「思いやりを持って、認め合い励ましあう仲間」 昨年度身に着けた「基礎」「基本」を土台として、率先して課題と向き合う姿勢を身に着けるとともに、科学的なものの考え方や国際感覚を養い、様々な課題・問題に対してプラス思考とチームワークで解決を図る人材育成を図る。	日々の生活の中で、学校生活が集団行動や仲間意識を持つことを伝え続けるとともに、「野外活動」「体育祭」「スキー研修旅行」などの大きな行事を通じて、集団の中の一員として、どのように集団と関わり、班員やクラスメイトなどとの協調・協力を図るかを考え、行動する場面を設定する。	4	4.0	後期より、学校のけん引者の立場となったことを踏まえ、各行事に関わる常任委員や学級委員などが、積極的に行動を起こす姿が、数多く散見されるようになった。更に自信を付けて、最上級生として、下級生に良い手本を示せる集団として成長する姿を期待している。	4	4	4	5	4	4	4.1	

中学3年部	「世界と世界を【結ぶ】」生徒の育成	・中学生生活の最終段階として、随所で自身の歩みを振り返る機会を創出し、現在の立ち位置を確認しながら、「自身に」、「相手との間で」、「より多くの人との関係の中で」必要なことを考え、未来を想像しながらより良い答えを導き、行動できるように指導した。 ・学習だけでなく、学習を支える諸能力や視座を養うために、各種計画表の活用やSSZ活動、読書文章作成・批評等の取り組みを積極的に取り入れた。	4	4.0	本年度は、多角的な視点を得るための機会を創り、一つひとつの物事に義務教育の修了を意識させながら、自身の成長や傾向（考え方や取り組み方や振る舞い）を振り返る場を随所に創出し、自身の力でより善く伸ばし、改善していく姿勢を養うことができた。また、進路選択など越えるべき壁を設定し、未来を見据えて計画を立て、堅実に歩む経験を積ませることができた。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
高校1年部	「凡事徹底」 ・物事を成し遂げるために、当たり前のことを当たり前に行えるようにする。 ・当たり前に行えることを一つでも多く積み重ねて、一流を目指す。	基礎学力をつけるために、スタディサプリを有効活用し朝学習に取り組んだ。また、スタディサプリを活用した英検講座を開設して資格取得にチャレンジさせた。積極的に課外活動に参加させて、社会性を育むことができた。学年で頭髪・服装特別指導を行い、校則を遵守することの意識を持たせた。	4	4.0	生徒一人一人が目標を持ち、その目標に向かって自ら取り組む姿勢を育む。自学自習が難しい生徒に対しては、放課後の時間を有効活用し、自ら学ぶ姿勢が持てるように寄り添い育む。また、課外活動へ積極的に参加させ具体的な将来像を形成出来るようにしたい。生徒指導も引き続き継続する。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
高校2年部	「自主自立」 ・目標に向かって自ら主体的に考え、行動、努力する。 ・自分の行動に責任を持つ。	・模擬試験結果を学年部で分析し、課題を共有するとともに、次年度を見据えた進路指導の方策を検討、計画した。 ・長期休業中はオープンキャンパスへの参加を促し、レポート課題を通して進路意識の向上を図った。 ・法人内大学・専門学校の情報提供および校内体験学習への参加促進を行い、法人内進学への理解深化と進学者増加を目指した。	4	4.0	・学習面では、意欲低下が見られる生徒に対して個に応じた指導や声かけを行い、学習の定着を図る。 ・進路指導では、自己理解や学部・学科研究を深め、特に理系分野への関心を高めることに重点をおき、進路意識の向上につなげる。 ・学校生活や生活態度が乱れがちな生徒には、家庭と連携し、生活習慣の改善を促す。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
高校3年部	1. 5年後・10年後の自分を視野に入れて目標を立てて、その実現に向けて最大限の努力をさせる。 2. 人としての基本を大切に、校則を守る。 3. 学校行事・生徒会活動・部活動など、仲間と協力して一生懸命に取り組む。 4. 学校の授業を大切に。	・自分の希望する進路先に関する情報を収集、比較検討し、進路実現に向けて自主的に行動させた。 ・挨拶や時間を守るなど、基本的な生活習慣を確立させ良いリズムで高校生活おくる努力をさせた。 ・学校行事を活用し、生徒個々が主体的に活動する環境を作り出した。	4	4.0	生徒自らが第一志望校の合格や就職先からの内定を勝ち取るために諦めず粘り強く努力する姿勢があった。生徒だけの頑張りではなく、担任、進学指導課、教科担当との情報を共有し、最適な体制を作ることが大切だと思う。学校行事の目的・目標を理解し、経験することで、社会性と主体性を育むことができた。	4	4	4	5	4	4	4	4.1
			平均	3.8									4.1

## 学校関係者評価委員のコメント

- ・一人ひとりの生徒に寄り添って、向き合っている教職員の皆様の姿がはっきりとわかる学校です。私たちも学校の素晴らしさを、もっと外部に発信し、静岡北中・高のため、協力していきたいと思います。
- ・大学受験に対して、担任の先生や教科担当の先生方に丁寧に指導していただき、とても感謝しております。また、担当外の先生方も面接練習等、快く引き受けてくださり、学校全体で受験生のフォローをしていただき、他校の保護者から北高は先生方の協力があっていい学校だねと言われました。周りには北高は子供たちのことをよく見てくれる学校だと伝えていきます。
- ・多くの学びや、北中・北高でしか経験できない探究活動を通して得た経験がこれからの人生の大きな糧となると思っています。
- ・大学受験の際には、担任の先生はじめ多くの先生方に手厚いご指導を賜りましたこと、本当に感謝申し上げます。
- ・授業料無償化になり、生徒獲得も新しい取り組みになると思います。教職員の皆様の努力に感謝します。
- ・先生方の手厚い日々の指導に感謝申し上げます。少子化の中、学校のブランド力のアップのために皆さんが頑張っていると思います。
- ・近年、生徒の自己効力感に着目した教授法が目立っており、研修に組み込んでみてもよいかと思われます。